

<監訳者プロフィール>

西田 登 (にしだ のぼる)

1963 年生まれ。バベルで翻訳家の金原瑞人氏に師事し、金原氏との共訳をきっかけにデビュー。以後現在に至るまで、ティーンエイジャーを対象とした YA 作品を中心に翻訳を続ける。主な訳書にクリス・クラッチャー作『ホエール・トーク』（青山出版 共訳）、『彼女のためにぼくができること』（あかね書房）、ルイス・サッカー作『歩く』（講談社 共訳）、デイヴィッド・クラス作『ターニング・ポイント』シリーズ全 3 巻（岩崎書店 共訳含む）等がある。



*Atom and Eve* はアメリカの若い男性作家の処女作で、しかもテーマのひとつがフェミニズムという実にユニークな作品です。女性の権利や尊厳には日本よりはるかに意識が高いとされるアメリカ、しかも近未来においてもなお女性差別が深刻であるという設定は意外ですが、本作は決して小難しいものではなく、むしろサスペンスタッチの海外ドラマを見ているかのような小気味いい展開と、ロマンスの要素まで兼ね備えた優れたものの娯楽小説です。

アメリカの社会背景、政治、科学などに関する調べ物には手間がかかりますが、一度読みだしたら止まらないリズムカルな訳文を仕上げる楽しさを思えばどうということはありません。歯ごたえもやり甲斐も申し分なしの課題です。ぜひチャレンジしてみてください！